



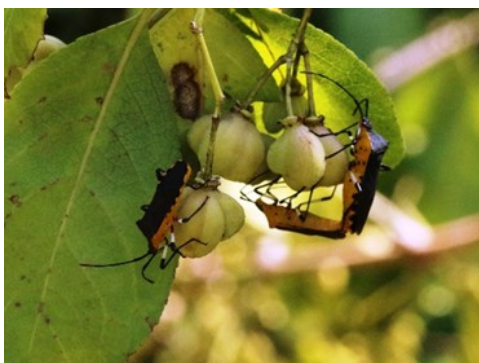
愛川ふれあいの村 今月の風景

2025年7月 自然のたより

今年の梅雨明けは東海地方までは平年より15日早い7月4日でした。この勢いで関東から東日本も早い梅雨明けになるのかなと思っていたら急に雲行きがあやしくなり、関東地方は平年並みの7月19日に梅雨明け宣言が気象庁より発表されました。ふれあいの村では、7月に入ってすぐニイゼミの声が聞こえて来ました。数年ぶりにやって来たツバメも無事に5羽のヒナが巣立ち、今は2番子の卵を同じ巣で温めているようです。今年も猛暑の夏がやって来ました。暑さとうまく対応して、安全に夏を楽しみましょう。（高梨）



県花・ヤマユリ



マユミの実にキバラヘリカメムシ



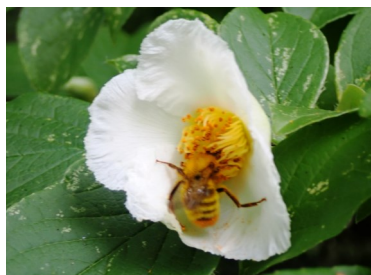
きれいな声で鳴くキビタキ



ネジハナ



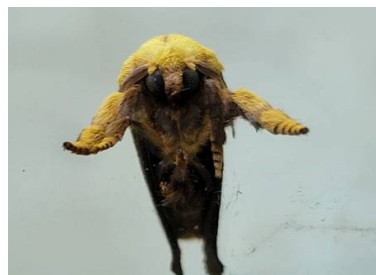
ザクロ



ナツツバキ



ヤブガラシ



ナシイラガ



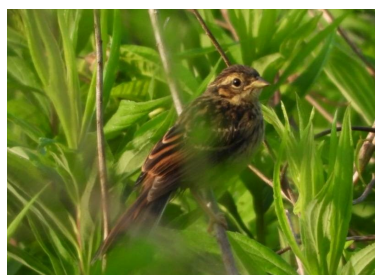
カブトムシ



シオカラトンボ



トビナフシ



数が減ったホオジロ幼鳥



エナガ幼鳥飛び立つ



シジュウカラ幼鳥



カワラヒワ幼鳥

トピックス

★夏の天気★

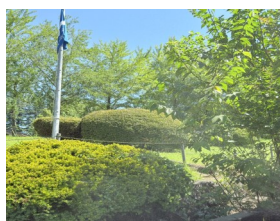
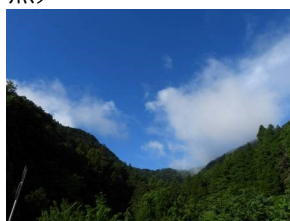
梅雨が明けて夏本番といった天気になってきました。夏だからと言って晴ればかりではなく、驟雨（しゅうう）や天気雨などの変わった天気が多い時期にもなります。突然降りだしてしばらくすると止む、にわか雨や通り雨の事を驟雨と言い、夏の季語にもなっています。天気雨は、狐の嫁入りと言われている。色々な言い伝えがあり、その中の1つを紹介すると、狐が人を化かして嫁入り行列を隠すために雨を降らせたという伝説から、この名前が付けられたそうです。

神奈川県夏の天気の特徴は、ムシムシした暑さで、夜も蒸し暑い「熱帯夜」が多発します。昔は扇風機1台あれば涼しく寝ていたのですが、今の気温ではエアコンが無いと寝られない人も多いと思います。市街地ではアスファルトや建物の熱で、気温が上がる「ヒートアイランド現象」が起こります。また、海に面しているため、台風の進路に入りやすく、風も強くなりがちです。

暑いからと言って大変なことばかりではありません。以前より夏に蚊が活動していないのはお気づきでしょうか。蚊は25～30℃で活動が活発になります。近年の7、8月は35℃を超える日が多く発生しています。高すぎる気温のせいで蚊の動きが鈍って姿を見かけないのです。ただ、夏が終わり、気温が落ち着くと、季節外れの蚊たちに出会う可能性が出てきます。

7月から長期休暇で外に出かける機会も増えるかと思えます。夏らしさを感じる天気や気候ですが、実際には危険も伴うものも多いので、天気予報や注意報をチェックして安全に夏を楽しみましょう。

（小熊）



生き物 ★アサガオと仲間たち★

夏の花というと真っ先に思い浮かぶものは何でしょうか。私は「アサガオ」です。小学生の頃に育てた思い出がある方も多いはず。朝に開花し、その日の昼頃にはしぼんでしまうことからその名がつけました。そんなアサガオですが、形や名前がよく似た仲間があります。1つ目はヒルガオ。薄い桃色をした、アサガオにとってもよく似た花です。昼になってもしぼまないことからこの名前がついたそう。2つ目はヨルガオ。ひらひらとした真っ白な花が特徴で、英語表記だとmoon flowerと呼ばれるそうです。

もう一つよく似ているユウガオですが、こちらはヒルガオ科ではなくウリ科の植物です。

アサガオの仲間はどの花も美しく、見応えがあります。特にアサガオは園芸種としての種類が非常に多く、育てても楽しいです。みなさんもぜひ、育ててみてはいかがでしょうか。（袖山）



旬

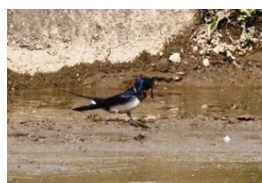
★紫蘇★

梅雨から夏に向けて、梅干しを仕込む人もいのではないのでしょうか。

赤い梅干しに欠かせないのが、紫蘇です。紫蘇は『赤紫蘇』と呼ばれ、この時期のみ出回ります。そして、『大葉』は『青紫蘇』と言われており、実は赤紫蘇の変種なのだそう。ちなみに、『大葉』という名称は、青紫蘇の若い葉を販売するときに用いられます。青紫蘇は葉以外の部分も利用されているため、部分によって名称が変わります。「花穂紫蘇（はなほじそ）」と呼ばれている紫色の小さいお花はお刺身などの日本料理についていたり、花穂に付いた実である「紫蘇の実」は、佃煮や漬物に使われています。

お店で紫蘇と大葉の2種類が見られるのは今だけ。

ぜひ、探してみてください。（大瀧）



来月の見どころ
ツバメやスズメの減少化
身近な夏鳥であるツバメが減少していると言われています。その原因は巣を作る軒下がある家が減少していること。えさ場の水田や畑の減少。農薬等の影響で昆虫類が減少することなどがあげられています。ツバメは、大きさ15cm～20cmで重さは17g～20gほどでも小さい鳥ですが子育ての際は、ハエや蚊など多くの昆虫を捕食する益鳥です。ふれあいの村でも五年ぶりにツバメが巣を作り直しました。みんなが見守る中、五羽の雛が無事育ちました。きつと今頃はツルヨシの茂る川べりで南の国へと渡る準備をしていることでしょう。たくさんのお巣を蓄え無事に南の国へ帰ってほしいと願っています。スズメも同じような理由で減少しているようです。野鳥を見つめ、大切にすること。さらに野鳥の生き方から地球環境を見つめることで結果的に人間を大切にするに繋がっていきそうです。すべての生き物が豊かに生きることが未来へと繋がっていききたいものです。（吉田）